

第5回「異常気象と長期変動」研究集会

平成19年度防災研究所研究集会(19-K06)

「気候変動と異常気象 メカニズムと予測可能性」

開催日時 2007年11月1日(木) 13:30~18:20

2007年11月2日(金) 9:40~16:40

開催場所 京都大学宇治キャンパス内 木質ホール3階大セミナー室

2007年11月1日

セッション1

司会: 山崎孝治(北大・地球環境)

13:30 趣旨説明

山崎孝治(北大・地球環境)

13:40 真冬の北極振動的な循環の前兆として観測される惑星波活動の変化

高谷 康太郎*(地球環境フロンティア)・中村 尚(東大・理)

14:00 中立特異モードによるNAO/PNAと成層圏卓越変動の励起メカニズム

麻生 祥仁*・伊藤 久徳(九大・理)

14:20 ブロッキング高気圧と成層圏突然昇温に関する事例解析

風本 圭佑*(京大・理)・向川 均(京大・防災研)

14:40 2006年と2007年の南極オゾンホールと循環場

小林 ちあき(気象庁・オゾン層情報)

休憩 15:00-15:20

セッション2

司会: 中村 尚(東大・理)

15:20 熱帯積雲対流活動に対する成層圏突然昇温現象の影響:

2001年12月の突然昇温予報実験結果から

小寺 邦彦*(名大・環境)・向川 均(京大・防災研)・黒田 友二(気象研・気候)

15:40 突然昇温に伴うプラネタリー波の予測可能性

一丸 知子*・廣岡 俊彦(九大・理)・向川 均(京大・防災研)

16:00 アンサンブル予報データを用いた2006年1月の成層圏突然昇温の解析

西井 和晃*・中村 尚(東大・理)

16:20 地球温暖化による降水量変化予測の排出シナリオ依存性

塩竈 秀夫*・高橋 潔・永島 達也・野沢 徹・江守 正多(環境研・地球環境)

休憩 16:40-17:00

セッション3

司会: 余田 成男(京大・理)

17:00 アンサンブル予報におけるモデル系統誤差の影響についての予備的研究

小山 博司*(北大・環境)・渡部雅浩(北大・地球環境)

17:20 気象庁におけるアンサンブル・カルマンフィルタ開発

三好 建正(気象庁・数値予報)

17:40 熱帯域季節内振動の活動度と予測可能性との関係

谷口 博*・向川 均(京大・防災研)・近本 喜光(東大・気候システム)・

久保田拓志(JAXA/EORC)・前田 修平・佐藤 均・伊藤 明(気象庁・気候情報)

18:00 熱帯対流圏界面付近の温度変動要因

吉田 康平*(北大・環境)・山崎 孝治(北大・地球環境)

懇親会(宇治生協会館) 18:40-20:30

2007年11月2日

セッション4

司会: 向川 均(京大・防災研)

09:40 強制された順圧応答における advective nonlinearity の役割 – PNA の理解に向けて –
森 正人*・渡部 雅浩(北大・地球環境)

10:00 PJ パターンの力学におけるモード性
小坂 洋介*・中村 尚(東大・理)

10:20 ニュージーランド付近のジェットの流れとストームトラック極小の季節変動と
冬季の経年変動
稲津 将*(北大・理)・Brian J. Hoskins(レディング大)

休憩 10:40–11:00

セッション5

司会: 前田 修平(気象庁・気候情報)

11:00 亜熱帯高気圧の季節進行
宮坂 貴文*・中村 尚(東大・理)

11:20 極前線ジェット上のロスビー砕波の構造
荒井 美紀*・木本 昌秀(東大・気候システム)

昼食休憩 11:40–13:00

セッション6

司会: 木本 昌秀(東大・気候システム)

13:00 2006/2007年暖冬に見られた循環場の特徴について
原田 やよい*・中三川 浩・長谷川 寛・後藤 敦史(気象庁・気候情報)

13:20 温位座標に基づく EP-flux を用いた運動量収支解析
氏家 将志*・原田 やよい(気象庁・気候情報)

13:40 2005年6月下旬に見られた梅雨前線の消滅と再形成
榎本 剛(地球シミュレータ)

休憩 14:00–14:20

セッション7

司会: 渡部 雅浩(北大・地球環境)

14:20 2007年夏の循環場の概要
前田 修平*・中三川 浩・長谷川 寛・後藤 敦史(気象庁・気候情報)

14:40 地球温暖化が大規模波動形成に与える影響
岩崎 俊樹*・望月 泰・小玉 知央(東北大・理)

15:00 北極振動指数の予測可能性
田中 博*・加藤 真悟(筑波大・計算科学)

休憩 15:20–15:40

セッション8

司会: 田中 博(筑波大・計算科学)

15:40 2007年夏季北極海の海氷激減について
猪上 淳*・鴨志田 隆・島田 浩二(地球環境観測)

16:00 夏季から秋季の北極域海氷面積変動が冬季ユーラシアの天候に及ぼす影響
本田 明治*(地球環境フロンティア)・猪上 淳(地球環境観測)・
山根 省三(地球環境フロンティア)

16:20 南半球大気大循環の変調に関連した海氷変動パターンの変化
宇田川 佑介*(北大・環境)・山崎 孝治(北大・地球環境)・
立花義裕(JAMSTEC/東海大学)

16:40 終了

研究集会発表要旨作成要領

ご講演頂いた皆様には大変お手数で恐縮ですが，研究集会の報告書を作成致しますので，以下の要領でご講演の要旨をご執筆頂き，期日までにご送付頂けますようお願い申し上げます．

期日: 2007年12月28日

提出ファイル形式: pdf ファイル

提出方法: e-mail の添付ファイルとして

mukou@dpac.dpri.kyoto-u.ac.jp

宛に，お送り下さい．

e-mail で送付できない場合は，下記までご連絡下さい．

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学防災研究所気象水象災害研究部門

向川 均

TEL: 0774-38-4151

FAX: 0774-38-4153

書式:

- A4 で4ページ程度以上
- 上下は3cm程度，左右は2.5cm程度のマージン(空白)をとる．ページ番号は記載しない
- カラー図版使用可
- 本文フォントサイズは11ptで，2段組みが望ましい(1段組みでも可)
- 引用文献もつけてください
- 先頭ページスタイルは以下のようにお願いします

講演タイトル[中央寄せ]

氏名(所属)[右寄せ]

本文開始(本文は11ptが望ましい)

文例として

<http://www.dpac.dpri.kyoto-u.ac.jp/mukou/meeting-03/Report/mukou.pdf>
を御参照ください．

以上です．

JR 奈良線 黄檗駅 時刻表(平日)

京都 ⇒ 黄檗 (往路)

08時	京都	13	22	40	51	57
	黄檗	38	42	00	12	23
09時	京都	23	36	53		
	黄檗	47	58	18		
10時	京都	05	23	35	53	
	黄檗	28	48	58	18	
11時	京都	05	23	35	53	
	黄檗	28	48	58	18	
12時	京都	05	23	35	53	
	黄檗	28	48	58	18	
13時	京都	05	23	35	53	
	黄檗	28	48	58	18	

黄檗 ⇒ 京都 (復路)

15時	黄檗	18	28	48	58	
	京都	39	49	09	19	
16時	黄檗	18	28	48	58	
	京都	39	49	09	19	
17時	黄檗	18	28	42	50	
	京都	41	50	02	11	
18時	黄檗	06	20	46		
	京都	26	48	11		
19時	黄檗	06	20	36	46	
	京都	25	48	56	11	
20時	黄檗	01	20	36	46	55
	京都	25	48	56	11	18
21時	黄檗	20	36	59		
	京都	48	56	20		
22時	黄檗	28	43	56		
	京都	48	07	18		